



川の水が流れる量は、どのようにしてはかるの

1 秒間に流れる水の体積をもとにする

川の水が流れる量を、はかるもとになるものは、川のある地点の横断面を、1秒間に流れる水の体積（立方メートル）で表したものです。これを流量といいます。

流量をはかるには、計測器を使う方法がありますが、これらは、流量が少ないときに使われます。

ふつう、川の流量をはかるには、流速計という機器や、うきを使います。これらを使って川の横断面の中のいろいろな所の、水の平均の速さをはかって、この速さと断面積との積から流量を出します。

水の流れの速さのはかり方

川の流れの速さをはかるには、流速計という機器を使います。水の流れによって回転するつばさを回転させて、その回転する速さから、流れの速さをはかります。

流速計には、一定の回転ごとに、メーターで表す電気式流速計と、音を出す音きょう式流速計があります。

うきを使って、流れの速さをはかる方法もあります。うきには、水の表面にうく「表流うき」や、「棒状のうき」があります。表流うきは風の影響が大きいので、日本では、竹を加工した棒うきをよく使います。

流れの速さをはかるには、うきを水面にうかべて、うきが一定のきよりを流れる時間から、流れの速さをはかります。何回も流れの速さをはかり、その平均の速さから、流れの速さを決めます。（監修・国司 真）

